



京都市地域企業未来力会議

News Letter

令和4年

19号

京都市地域企業未来力会議を令和4年12月15日（水）に京都市勧業館（みやこめッセ）で開催しました。今回は、“公益的な事業者連携による”新たな可能性を模索する社会実験「京都・地域企業 未来の祭典2022～KYOTO ECONOMIC CULTURE FESTIVAL～」として、10、11月の約2箇月にわたり行われた具体的な取組内容の共有と、参加者による意見交換が繰り広げられました。



開催挨拶

京都市長

門川 大作



地域企業未来力会議で「京都・地域企業宣言」が生まれ、その理念を受けて「京都市地域企業の持続的発展の推進に関する条例」が市会の全会一致の議決を受けて制定し、これまでに13の事業を進めた。この会議は7年目を迎えて、更なる発展を遂げ今年度には地域企業未来の祭典が開催された。何よりも地域企業の皆さんが垣根を超えて取り組まれていること。それぞれテーマを持たれた方たちが融合しているのが素晴らしいことだと感じる。コロナ禍で社会の分断が進む中、課題の解決と同時に経済の発展も一致させていく、まさにSDGsの達成にもつながるもので、非常に可能性のある場だと感じる。今後も、様々な取組が融合し、創造的に進んでいくことを期待している。

京都府中小企業団体中央会

会長 阪口 雄次



コロナ禍で地域企業を取り巻く環境は非常に厳しいものがある。来年は卯年、飛躍の年と言われている。待望の文化庁の移転もある。京都で文化に関わりをもつことは、地域企業にとっては新たな機会の創出にもつながる。市長が度々お話しされる「文化に付加価値を。生活文化を産業化する」といった考え方は、まさに未来力会議で地域企業の皆さんが議論し取り組んでいることにはではないかと思う。皆さんの京都らしい未来を見据えた、地域企業ならではの取組に期待している。

【第一部】 前半：地域企業等による自主的な取組の共有と呼びかけ



第1部では、「京都・地域企業未来の祭典2022」において社会実験に取り組んだ12組が、取組の共有とともに協力してほしい点などを発表しました。会場参加者からはフィードバックコメントをご記入いただき、顧問の方々からは応援コメントをいただきました。

01 「リンカンガッコウ」プロジェクト

株式会社Hibana 松田 直子 氏、公益財団法人京都市環境保全活動推進協会 重原 奈津子 氏



3年前の未来力会議で発表したプロジェクトが、他の事業者との連携により更なる発展を遂げた。昔、神社や公園での授業を林間学校と呼んだ文化を、今の時代こそ生きる力を育む仕組みと考へ、大人も子供も自然の中で多様な学びを深める企画を進めている。祭典では里山、森、川での各プログラムを実施し、各回市内から20-30名が参加した。アンケート結果も良好で大人のニーズの高まりを感じることができた。今後、修学旅行生向けや企業向けの研修プログラムなども展開するため、連携先を増やし広げていく。

02 ごみカフェKYOTO～LFCコンポスト堆肥回収会～ 他

株式会社夢びと/中田俊税理士事務所 中田 俊 氏



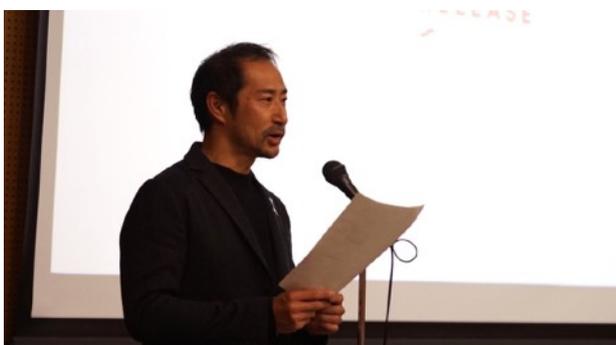
主体が集まる多様な場づくりを進め、集まった人たちの視点で事業を進めてきた。生ごみの堆肥化と堆肥回収会のムーブメントを京都市、地域企業と進め、これまで3トンの生ごみを回収した。堆肥は大宮交通公園、西京区の藍農家へ提供するほか、この循環をテーマにした企業研修や修学旅行への展開も生まれている。更に京信人材バンクと連携し、15名の複業チームと共に運営し、新しい働き方や効果が生まれている。また祭典では公開ミーティングを実施し、地域通貨「京都祭コイン」を用いて地域の文化を応援する仕組みの構築について議論をした。今後も更なる関わりの広がりを期待し、会場へ声かけがあった。

03 アフリカ布デザインコンペ | 株式会社AFURIKA DOGS 中須 俊治 氏



アフリカと京都のカルチャーをつなげる取組を進めている。かつて京都では月産200万mもの布をアフリカに輸出していた。今回の社会実験では、アフリカ発のアフリカプリントをもう一度京都でつくる実験として、持ち帰ってきた図案の選定会を開催した。今後、布の制作を進めていく。連携先のアフリカの村では貧困が大きく広がっている。現在、制作後のデザイナーでの経済的支援や、学校教育支援など、現地支援の協議を行っている。一番ソーシャルインパクトの高いアクションを導いていくとともに、京都の染色職人の後継者育成にも取り組んでいく。

04 循環フェス | 株式会社ヒューマンフォーラム 岩崎 仁志 氏



ファッション業界の課題を踏まえ古着の回収事業とイベントを始めた。京都市のバックアップのもと地域の事業者4社で連携協定を組み、9月から市内150箇所に回収ボックスの設置する取組をスタートさせた。回収後の洋服はリサイクルではなく洋服として使うリユースを前提とし、脱炭素社会にも貢献していく。11月に開催したリユースのお祭り「循環フェス」では、若者を中心に12,000人が参加し合計1.3tの古着を回収することができた。次回は来年5月を予定している。プロジェクトの運営、回収ボックスの設置、古着の利活用への参画、リサイクルの業務提携など、協業の呼びかけがあった。

05 エシカル・フードロス・アライアンス

| 発酵食堂カモシカ 関 雄介 氏、NPO法人みんなの地球のくらしかた 廣海 緑朗 氏



フードロス解決を目指し、京都市内の飲食店、ホテル、百貨店、銀行等、2022年10月時点で現在42団体が参加し活動を進めている。招待制のSNSを活用し、廃棄が必要な食材の活用方法の意見交換を進めたほか、未来の祭典では公開Zoomミーティングを開催した。飲食店だけでなくメディア系企業も参加しており、参加者それぞれが特性を活かしフードロスに対する具体的なアクションが進んでいる。京都のフードロス食材を使ったシュートレン「八方良薬」も誕生した。今後も対話を深めていくとともに、参加の呼びかけがあった。

06 Kyoto Organic Action | 一般社団法人京都オーガニックアクション 廣海 緑朗 氏



食品の流通上オーガニック野菜は取扱が少なく、オーガニック農家が独自で流通を作らなければならない状況がある。そのため2017年頃からオーガニック生産者と八百屋を物流でつなげる活動を始めた。保冷車付きのハイエースと2t車を週に4便運行する流通が生まれている。10月に社団法人化し、お披露目イベントには地域企業70社以上に参加いただいた。11月には生産者を訪ねるツアーも実施した。今後もオーガニック野菜をその地域で食べることがライフスタイルになるよう広げていきたい。様々な社会課題の解決のつながりが加速している京都の機運を醸成させるとともに、参画の呼びかけがあった。

07 障害を持つ仲間とともに働き、成果を生み出す仕組みづくり実習会

ワコールアイネクスト株式会社 鳥屋尾 優子 氏



ワコールの特例子会社として障害者雇用を通じたオフィスサービスを提供している。障害者を受け入れる側のノウハウや知識が、社会に提供されるものが十分ではないことに着目し、弊社の仕組みづくりを言語化し、カリキュラム化を行った。未来の祭典では3日間の実験的講習会を開き5つの組織に参加いただき、業務遂行や採用のポイントなどを説明。結果、自社のノウハウが役に立つことが実感され、個別のコンサルティング等の引き合いをいただくことができた。2月末～3月にかけて改良後のサービスをリリースする。関心のある企業への呼びかけがあった。

08 自分『らしさ』を見つける交流会 ～RASHISA～

株式会社Encirsos / 司法書行政書士あゆみ総合法務事務所 田中 あゆ美 氏、京都の手染め染色 アート・ユニ 越本 大達 氏



これまで子供たちと起業家をつなぐスタディツアーやインターンシップマッチングなど、子供たちが選択肢を多く知る機会を提供してきた。一人ひとりがそれぞれの良さを存分に発揮し自分らしさをみつけられる交流の場を企画している。祭典の期間中は、流彩染め職人とともに染色の体験イベントを開催した。大学時代に就職活動に悩み「RASHISA」に参加した越本氏からは、洋服生地の染め職人になった自身の体験を共有があった。今後の「RASHISA」への参加と学生と交流、登壇についての呼びかけがあった。

09 総務・バックオフィスで働く人のためのコミュニティSOU-MU 部

京都市ソーシャルイノベーション研究所 / 税理士法人田中経営会計事務所 田中 慎 氏



右腕人材の重要性やバックオフィス人材が交流する機会は少ない。光が当たらないバックオフィスに注目した取組。コロナ禍では、オンラインコミュニティを立ち上げたところ全国から参加があり、452人のコミュニティに育った。今回の社会実験では、京都信用金庫QUESTIONにてイベント「SOU-MU NIGHT」を開催した。総務という仕事の面白さや、クラウドの活用などの新しいテクノロジーの話題について共有するとともに、ゲストに僧侶に登場いただくなど対話を深めた。人材不足のなか各社が総務人材を採用することが困難な時代になることを想定し、今後も総務の人材同士の顔が見えるコミュニティを育てていく。それぞれの地域企業の総務人材の参加の呼びかけがあった。

10 めぐり食堂Sui | 株式会社MIYACO 仲田 匡志 氏

こどもと行こう！祇園祭「みんなの銚の写真展」 | 株式会社こいこい

/ 一般社団法人リリース 橋田 知世 氏（代理報告）



全盲の子供、児童養護施設の高校生、少年院を出所した青年たちがキャリアプログラムとして、複数の企業が連携し2日間限定の食堂を開店した。生きづらさを抱えた若者がお金を稼ぐ経験を通じた自立を応援していく。料理の出し方を始め様々な社会経験になったほか、金額を明記しないメニュー「Wishリスト」を提示し、お客様が金額を決める仕組みで2日間で約17万円を売り上げることができ、参加者が大きな自信を持つきっかけを作ることができた。今後の継続的实施を模索していく。



親子で祇園祭に出掛けられる社会環境づくりを行う地域企業のグループ。社会実験では銚づくりワークショップを実施。実行委員会形式で開催し、おかあさんコミュニティ、ものづくりコミュニティと連携することができた。完成品の写真をオンライン写真展として開催したところ、ゼスト御池で1月29日から5日間リアルでも開催が決定している。関心ある地域企業への参加の呼びかけがあった。

11 第1回・第2回地域企業勉強会

| 京都市ソーシャルイノベーション研究所 / 世界人権問題研究センター（専任研究員）井上 良子 氏



祭典の期間中、「京都・地域企業勉強会」を開催し、2日間で4つのテーマを議論した。様々なステークホルダーと育み、文化だからこそ協業できる「経済と文化の架け橋」について。ものとして消費する観光ではなく、観光客も応援できる「サステイナブルツーリズム」への期待。異質なコミュニティの混ざり方や、ボーダーを超える「多様な働き方」について。自分ごとで取り組み継続的な仕組みとなる「サーキュラーエコノミー」についてなど様々な視点と議論が広がった。今後も意識の高い人たちだけが集まるのではなく、多様な人たちとの関わりや議論を広げていく。

12 地域のおしごと博物館

| 一般社団法人未来コンシェルジュ / 有限会社鈴木モータース 鈴木 千鶴 氏



以前この未来力会議で発表したプロジェクトで、子供に地域企業の仕事を体験していただくプログラムを企画し運営を進めている。2019年から10の地域、55社、871名の関わりが生まれ、地域や協力者となつながら大きな実績を生み出すことができた。参加した小学生の職業意識の向上もみられる。未来の顧客、社員の働きがいつくり、ソーシャルな企業価値をつくることができる。現在、他府県への広がりが生まれている。2022年6月には社団法人化した。本取組の趣旨を共有できる地域企業との実施を進め、地元での消費や地元で働く未来を育てていきたい。開催後も持続していくためのアイデアの募集とともに、更なる広がりを目指した連携に向けての声かけがあった。

【第一部】 後半：今後の実験に向けて、参加者同士による意見交換

発表者、参加者がランダムにテーブルに分かれて意見交換を行いました。最も関心を抱いた取組や呼びかけやその理由など、背景にある課題意識や意欲を共有しました。

【第二部】 交流会では、意見交換の時間では共有できなかった話や今後の可能性など、参加者同士の交流を更に深めていただきました。

意見交換会の様子



各発表を受け、参加者を代表して意見、感想

| 株式会社フラットエージェンシー 代表取締役社長 吉田 創一 氏



2022年10～11月の2カ月間、企業間の連携を踏まえた社会実験を行ってきた。次年度も同様の試みを、皆さんと自発的に進め豊かな取組に育てていきたい。参加されている方々は、京都の未来に対して意志高く活動されている。この会議に参加されていない方、活動を知らない方々にもお声をかけし活動を広めていきたい。また、経営者だけでなく社員もお声がけいただき、豊かな働き方にもつなげていただきたい。自社でも京都で学ぶ学生が京都で働くことを知るプロジェクトを始めた。京都市地域企業未来力会議でつながりを深め、参加される企業がそれぞれの関心のあるテーマで、共創による社会実験を進めていただきたい。

顧問からの応援コメント



顧問の方々からは、未来思考で具体的かつ社会的な事業者たちが一堂に会するこの集まり自体への評価をいただいたほか、応援コメントとして「熱意ある説得力ある発表であった、更なる進化と広がり期待している」「実現可能性の前の第一歩である『共感』を強く感じた」といったコメントをいただいた。今後については「活動を通じて付加価値と人との更なる繋がりをもたらし、多くの事業が持続的に社会実装されることを期待したい」などの応援コメントがあった。

●事務連絡

地域企業応援プロジェクトWEBについて

地域企業応援プロジェクトWEBについて 地域企業未来力会議の内容や、地域企業のアイデアの具体化を支援する、「地域企業応援会」等の情報を掲載しています。是非アクセスしてみてください。

京都 地域企業応援プロジェクト 検索 <https://community-based-companies.kyoto/>

発行：京都市地域企業未来力会議 事務局（京都市産業観光局 地域企業イノベーション推進室）

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

TEL 075-222-3329 FAX 075-222-3331 URL <https://www.facebook.com/kyotoshichushokigyo/>

MAIL chiikigyo@city.kyoto.lg.jp